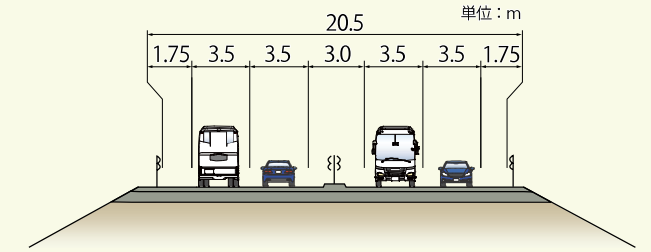


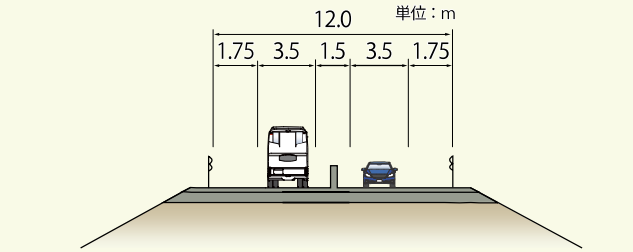
道路規格・標準横断図等

熊本環状連絡道路・大津熊本道路



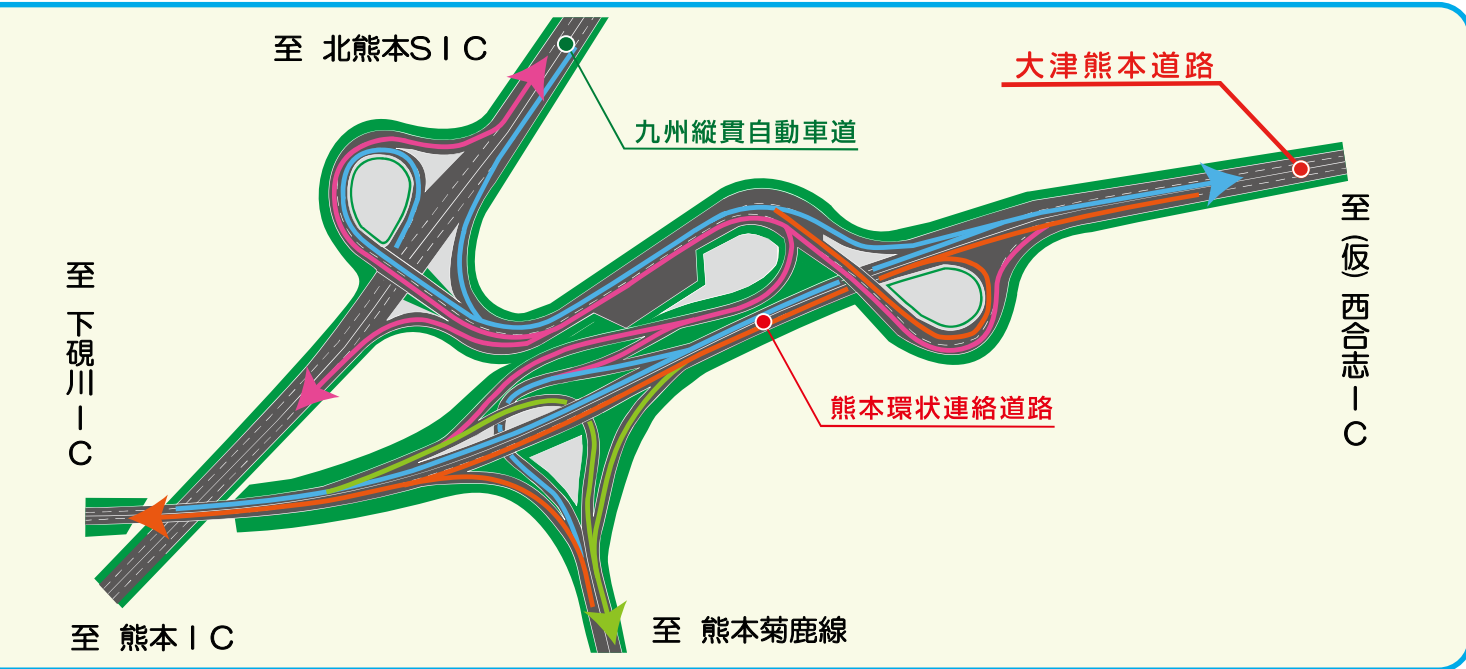
	熊本環状連絡道路	大津熊本道路
道路規格	第1種第3級	
延長	3.9km	13.8km
設計速度	V=80km/h	
車線数	4車線	
道路幅員	20.5m	

大津道路



	大津道路
道路規格	第1種第3級
延長	4.8km
設計速度	V=80km/h
車線数	2車線
道路幅員	12.0m

(仮)熊本北JCT・ICイメージ

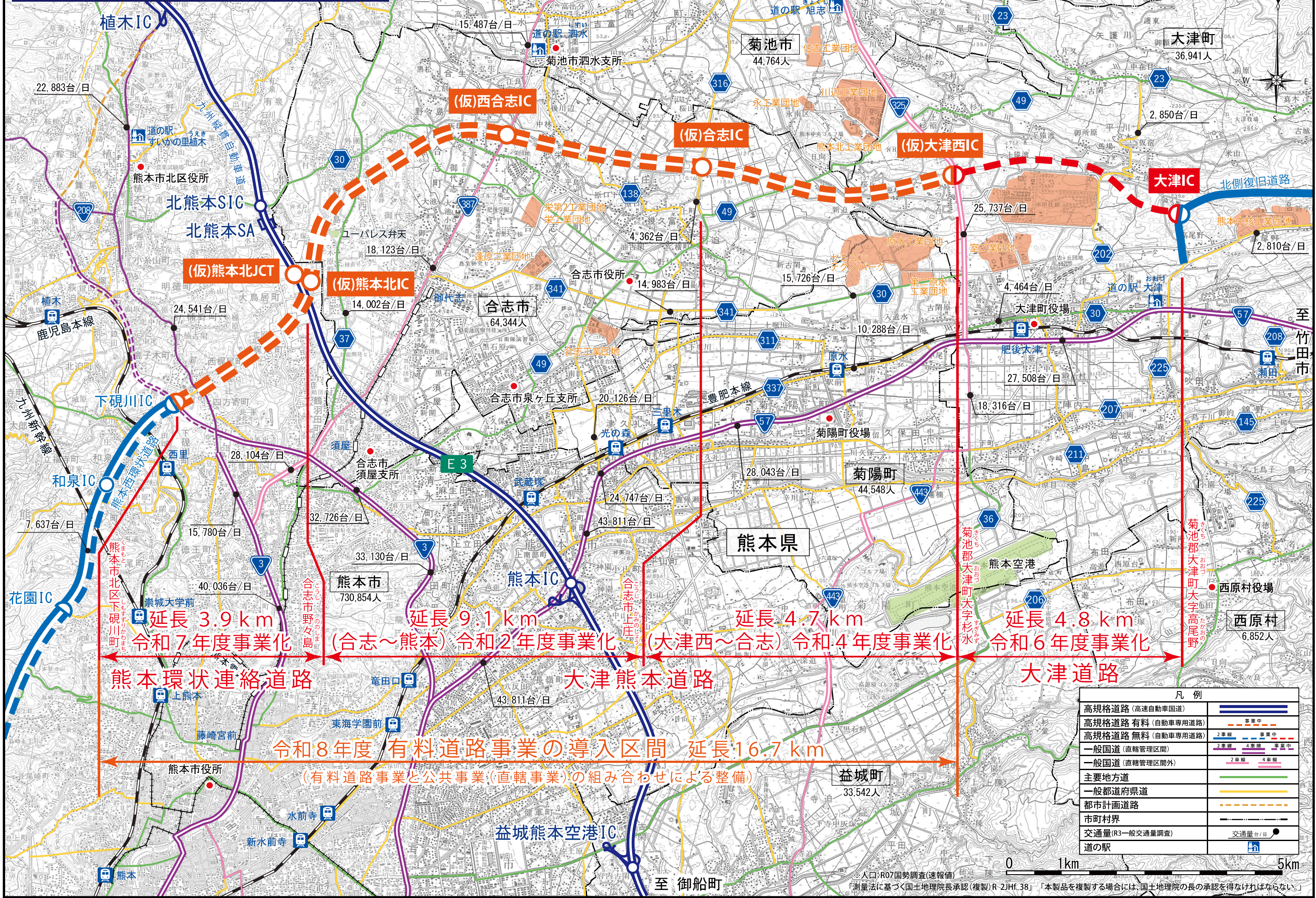


事業の経緯

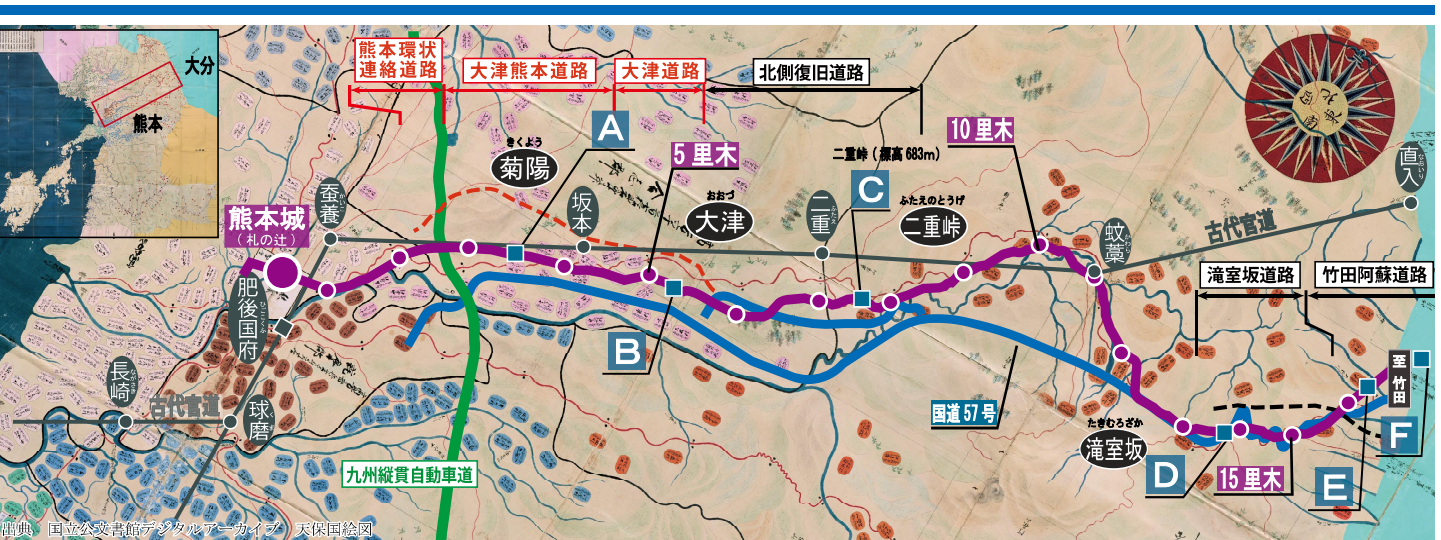
		大津熊本道路		大津道路
		(合志～熊本)	(大津西～合志)	
事業化		令和7年度	令和4年度	令和6年度
有料道路事業の導入		令和8年度		—
都市計画	決定(上幅)※1	令和6年2月	令和2年1月	
	変更(下幅)※2	—	令和4年7月	令和6年3月
	変更(有料)※3	令和7年12月※4		—

※1:自動車の通行に必要な道路の幅員 ※2:※1に道路構造として必要な法面等を加えた幅 ※3:有料道路事業の導入を目的に、料金所等の施設配置に必要なエリアを追加 ※4:熊本環状連絡道路は上幅、大津熊本道路は下幅にて都市計画変更

熊本環状連絡道路・大津熊本道路・大津道路 概要図



古道 豊後(肥後)街道 「道は人と地域を結び 心まで通い合う」



A 菊陽杉並木



菊陽町は、国道 57 号と JR 豊肥本線がほぼ平行して走る熊本城札の辻から東方約 15 キロに位置します。途中の二重木の武蔵塚公園には、宮本武蔵像が肥後藩参勤交代の無事を祈る形で建立。その先は、道幅約 30mの両端に加藤清正緑の大津街道菊陽杉並木の老木が続きます。街道は勝海舟や坂本龍馬などが往来。周辺には、頼山陽記念碑や轟くり井手、鉄砲家集落などが見られます。

B 宿場町大津



大津町は、札の辻から五里にあたり、最初の参勤交代の宿場町として栄えました。当時、肥後藩には、川尻・高瀬・大津の三箇所に御蔵があり、大津御蔵には俵数約 16 万俵が納められていました。明治 10 年の西南戦争時に薩摩軍司令が置かれた大蔵寺、光尊寺石橋、加藤清正公緑の疎水百選の上井手などが見られます。大津宿から緩やかな坂を辿り高尾野、新小屋を経て二重峠に至ります。

C 二重峠



二重峠(標高 683m)は、古代・中世・近世を通じて、政治・経済・文化・軍事・年貢納めの重要なルートでした。古くは平安中期の古代官道、参勤交代の道、西南戦争などに使われました。神話に登場する地名に健甕龍命(月の名人)が阿蘇カルデラ内の湖水を排水して美田にするため、外輪を蹴破ろうとした二重(ふたえ)や往生岳から弓で石を的に練習した的石(まといし)が今でも残っています。

D 滝室坂



滝室坂は、熊本から滝室坂までは十二里に位置し、加藤清正公(熊本初代藩主)が軍事と交通の重要なルートとして整備。その後、細川藩が参勤交代に利用した豊後街道の最大の難所でした。宿場町坂梨から北外輪山に至る標高差約 200m、距離にして3キロの急坂です。この坂を人々から「大坂に坂なし、坂梨に坂有り」と呼ばれていました。また、伊能忠敬も日本地図作成に坂梨宿に止宿しました。

E 境ノ松坂石畳



境ノ松坂石畳は、参勤交代のため整備された、肥後と豊後を結ぶ豊前街道の一部です。鬱蒼とした杉林に囲まれて平均幅約 3 m、長さ 200mの古い石畳の道です。途中鋭角のカーブがあり、大分県境手前、熊本県最後の難関です。石畳をのぼりつめると、かつて肥後と豊後の境に植えられた境の松がありました。開けた視界の先は豊後の国。また、峠の茶屋もありました。

F 今市宿の石畳



今市宿の石畳は、江戸時代の参勤交代路です。石畳は、幅約 2 メートル、延長 660 メートルに及びます。当時は宿場があり、上町と下町に分かれていました。途中には、「信玄曲り」と呼ばれるクランク状の曲がり角が設けられ、宿場全体を見通せないよう、防備のための構えがありました。また、曲がり角には火除敷としての竹林が作られて防火にも役立っていました。